



プリキュアからの応援で 元気♡勇気を子どもたちに！

“自分の力を輝かせて生きる子どもたちを応援する”という主旨に賛同する「プリキュア15周年キャンペーン」のご協力の元、昨年末に実施したクラウドファンディング「プリキュアも応援します♡フィリピン・サマル島はじめての『おしごと体験図書室』誕生プロジェクト」。団体初の試みとなった本プロジェクトは、期間中 492 名の方から、目標の 500 万円を超える 8,372,284 円のご支援をいただきました。心より感謝いたします。子どもたちの将来の可能性が広がる図書室の建設を行っていきます。

夢をかなえたチャイルド

ルワンダ



2018年9月のWVJ設立30周年記念イベントのためにルワンダから来日したフィレットちゃん(10歳)が、帰国後に学校で日本での経験を発表しました。

「日本に行って、どうやって日本の皆さんとコミュニケーションを取れば良いのか心配でした。でも、温かく迎えてくれたので、すぐに仲良くなることができました。記念イベントでは、約500人の来場者の皆さんの前で私たちが準備した詩を発表する時間がありました。緊張することなく、大勢の方の前で発表ができたことをとても誇りに思いました。会場の皆さんがたくさん拍

手をくださいました。

私たちは横浜市の捜真小学校の皆さんにも会いに行きました。笑顔で私たちを迎えてくれました。皆さんから、温かいおもてなしを受けました。

日本の子どもたちは、まだ幼い時から特別な授業(音楽、美術)が受けられます。知識と経験を積んだ先生がいるので生徒の皆さんはレベルの高いスキルを身に付けていました。そして授業に必要な材料、機材がそろっているので理解を深めることができます。ルワンダと比べると、私の学校は生徒がそれぞれ違うスキルを身に付けるために役立つ材料、機材があまり揃っていません。でも私たちが

大人数の皆さんの前で発表ができたように、ルワンダの子どもたちには可能性があると感じました。できないと思っていたことが、できたのです。みんないろんな可能性を持っているということを知りました」



日本滞在中に習字と浴衣の着付けも楽しみました！
(フィレットちゃんは中央)

World Vision News



上智大学×WVJ共同調査 ヨルダンにおけるシリア難民支援事業の今

未来ドラフト2018
グランプリ受賞アイデアをビディビディ難民居住地で実現！

193

2019年6月
ワールド・ビジョンニュース



チャイルド・スポンサーシップ
募金のお申込みはこちら

電話でのお申込み 0120-465-009

WEBからのお申込み



Take Back Future は、教育を通じて、紛争や貧困により移動を強いられる子どもたちに対する暴力を撤廃し、暴力が繰り返されない未来を築くことを目指して WVJ が展開するキャンペーンです

上智大学 × WVJ 共同調査

ヨルダンにおけるシリア難民支援事業の今

70万人近くのシリア難民を受け入れるヨルダンでは、難民の子どもたちにも教育機会を提供するため、多くの公立学校が午前・午後の二部制で運営されています。しかし、二部制の導入により授業時間が短縮され、一部の子どもは授業についていけなくなっています。また、午前に勉強するヨルダン人と午後には勉強するシリア人との交流がないことから、いじめや差別が発生しています。ワールド・ビジョン・ジャパン(以下WVJ)は2014年から、シリア難民が多いヨルダン北部の都市イルビドとザルガで、勉強についていけない子どもたちのための補習授業と、ストレス解消や両国籍の子どもとの交流を目指したレクリエーション活動を行っています。



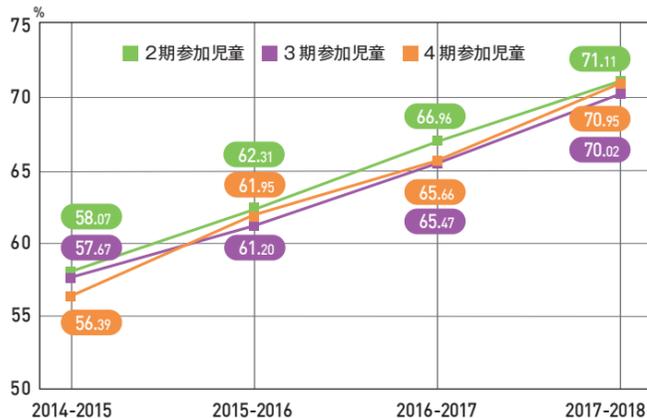
補習授業の教員から聞き取りを行う小松教授

上智大学との共同調査 経緯と概要

2011年3月のシリア危機発生から8年が経過した今も、シリア国内の情勢がいまだに不安定なため、ヨルダン国内にいるシリア難民の85%が「1年以内にシリアに帰るつもりはない」と回答しています。シリア危機の長期化に伴い、WVJのヨルダンでの支援事業も5期目を迎えた今、これまでの事業の成果を客観的に評価し、今後の事業の進め方を検討するため、緊急時の教育の専門家である上智大学の小松教授の協力を得て、評価調査を行いました。

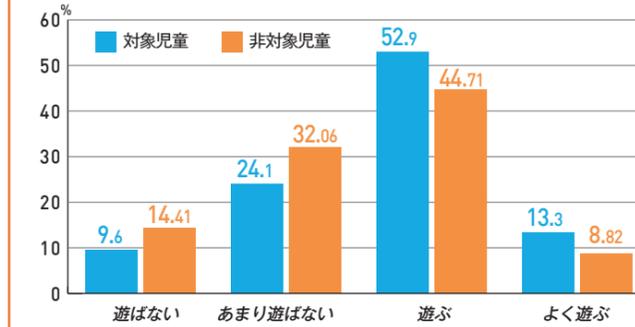
現地での調査内容・結果

事業の対象児童と非対象児童の成績、学習意欲、中退率、他国籍の子どもとの交流等に関する数百人規模のデータ収集を行い、データを比較分析するとともに、対象児童や保護者、補習授業の教員等の関係者への聞き取りを行いました。この結果、以下のような事業の成果が見えてきました。

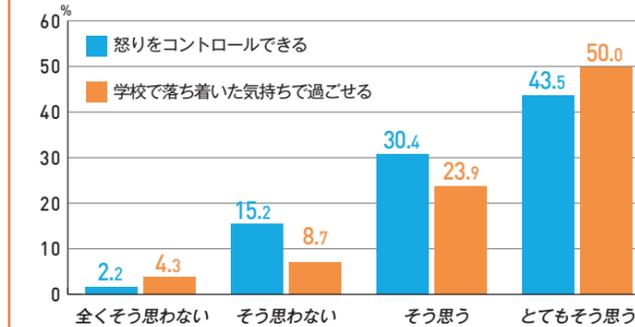


補習授業に参加した子どもたちの公立学校での成績*が向上

*英語、アラビア語、算数の平均点



事業の対象児童の方が、非対象児童より「他の国籍の友だちと遊ぶ」率が高い



補習授業に参加する前と比べて参加後の方が「怒りをコントロールできる」「学校で落ち着いた気持ちで過ごせる」と答える子どもたちが70%以上



補習授業に通っているシリア難民のヤミン君 (13歳)

補習授業の先生は丁寧に説明してくれるので、内容がよくわかるようになり、勉強するのが楽しくなりました。普段の学校の授業で困ることも今はありません。みんなが内容を理解するまで、次に進まずに待つてくれるところが、補習授業の良いところだと思います。学校ではヨルダン人の友だちと一緒に勉強する機会はないけれど、近所にはヨルダン人の友だちもいます。将来はサッカー選手になるのが夢です。

ヨルダンにおける補習授業プロジェクトを視察して

上智大学総合人間科学部 小松太郎 教授

8年間にもおよぶシリア内戦のため70万人近くの人々がヨルダンに逃れました。その多くはヨルダンの地域社会に住んでいます。紛争の影響により大きなストレスを抱え、異なる教育カリキュラムで苦勞し、加えて学校での体罰や、難民に対するいじめなど、シリア難民の子どもたちは厳しい環境に置かれています。補習授業を視察すると、子どもの保護研修を受けた教員のもと、子どもたちは意欲的に授業に参加しています。彼らの学力も上がっています。一方で、自尊心を持ち、安心して学習に取り組めない子どもたちもまだ多くいます。ヨルダン社会で生活するため、そして将来シリアで平和な社会をつくる一員となるためにも、彼らが学び続ける環境を整えることが大切です。



難民支援募金にご協力ください

シリアや南スーダン等、紛争の影響で教育の空白期間がある子どもたちが大勢います。学校に通えずにいると、安全に過ごせる場所がなく、児童労働や虐待等のリスクが高まります。WVJでは、子どもたちが安全な環境で学びを取り戻せるよう、校舎建設だけでなく、補習授業の教員育成、教育についての啓発活動など多面的な支援をしています。紛争から避難する子どもたちが、武器ではなく知恵を得るために、募金にご協力ください。

ワールド・ビジョン 難民支援募金

未来ドラフト 2018

わたしと難民がつながるアイデア・コンペティション
グランプリ受賞アイデアを
ビディビディ難民居住地で実現！

【未来ドラフト 2018～わたしと難民がつながるアイデア・コンペティション～】でグランプリを受賞したチームが、そのアイデアを実現するため、2019年1月4日～1月13日の日程でウガンダにあるビディビディ難民居住地（以下、ビディビディ）を訪問しました。現地での活動内容、およびチームが実感した難民問題の「理想と現実」レポートをお届けします。

グランプリ受賞アイデアが目指したゴール

- 様々な民族や国籍の難民の子どもたちが、楽しみながら互いの違いを乗り越える
- 各地で活動している「PEACEクラブ」をつなぎ、次世代にその存在を示し、「PEACEクラブ」メンバーを増やすことで長期的な平和構築につなげる

活動エリア：ビディビディ難民居住地 ZONE 3 WVJが支援している6つのチャイルド・フレンドリー・スペース

4日間で、1000人以上の子どもたちに届けた「平和のスピーチ」

ビディビディ初の映画上映や、日本から運んだ折り紙、キックターゲット、シャボン玉などを用いたジャパニーズ・フェスティバルを通して、4日間で約1000人以上の子どもたちと交流しました。その子どもたちに最も届けたかったのは、楽しい時間だけではなく、このプロジェクトをともに実施した、難民の子どもたちによって構成されている「PEACEクラブ」メンバーによる「平和のスピーチ」。「平和を愛し、求め、つくっていくのは、ほくたち・私たちだ！」という力強いメッセージを届けることができました。



初めて見る映画に釘付けの子どもたち



映画上映前に、平和への想いを話す「PEACEクラブ」メンバー



「PEACEクラブ」と平和について話し合っている様子

実現してみて分かった「理想と現実」～実現チームより～

「PEACEクラブ」メンバーが抱いている平和への強い想いと行動力があってこそこのプロジェクト実現でした。多くの子どもたちに「PEACEクラブ」の存在やその意義を示しながら、たがいの違いを超えて楽しむことができ、0から1を生み出す、という意味では成功と言えます。一方、食糧や水など基本的物資が不足している中で「平和」を優先事項にする難しさ、支援する側と受ける側の距離感の難しさを身を持って感じました。4日間、「PEACEクラブ」とともに過ごしたことで「友だち」のように語り合えた一方、最終的には物をねだられ、その期待に応えられないと不満がられてしまい、実際に足を運び交流してこそ気づけたことが多くありました。この経験を活かしてこれからも様々な課題に取り組みたいと思います。



開成高校生が「難民」を知るために、難民居住地へ



キックターゲットや突然始まる試合を一緒に楽しみ、交流しました



20人以上の難民の子どもたちに、困っていることや将来の夢についてインタビュー

「未来ドラフト 2018」で特別賞を受賞した開成高校生2名が、「何もできないまま終わりにたくない」という強い思いから、「難民問題を同世代にもっと知ってもらおう」ことを目指し、学内で「K-Diffusionors」（開成高校 拡散部隊という意）を立ち上げました。特別枠として「未来ドラフト 2018」グランプリ受賞チームとともにビディビディを訪問し、難民の子どもたちや国際機関で働く職員へのインタビューや VR 撮影を実施。帰国から3カ月後の4月7日、難民居住地で見たこと、聞いたこと、感じたことを同世代に広く伝えるための講演会をWVJと共に開催し、230名の中高生・大学生が会場に集いました。

難民居住地を訪問して感じたこと 開成高校「K-Diffusionors」スピーチより

僕たちはウガンダに行って2つの「ちがい」について考えるようになった。1つは過去と現在の「ちがい」だ。難民として苦しんでいる人々が、生きるか死ぬか、という絶対的に厳しい状況に置かれている場合もある。しかしそれだけでなく、過去の環境、人間関係が突然崩れ去って今に至るという、その「ちがい」の大きさにも苦しんでいることもある。2つ目は人と人の「ちがい」だ。難民として来る人々を受け入れるかどうかは、彼らと自分たちの文化、歴史の「ちがい」をどう捉えるかにかかっている。「ちがい」を拒絶するか、寛容に受け止めるかによって、私たちの未来は変わってくるだろう。



講演会に集まった中高生たち



C20に登壇した、緊急下の教育支援専門家、マルコ・グラスティア

G20 大阪サミットに向けて提言 -すべての子どもに教育を- (アドボカシー活動)

6月に開催されるG20大阪サミットに先駆け、市民社会組織が集い、政策提言と政策対話を行うC20サミット(Civil20)が4月21日(日)～23日(火)に開催されました。多くのアジェンダがある中で、未来を担う子どもたちへの「教育」も重要なテーマの一つと位置づけられている今年のG20サミット。C20サミット中に開催された「教育のための資金」に関する分科会では、ワールド・ビジョンの緊急下の教育支援専門家、アフリカ、中東などの紛争・災害の現場で豊富な経験を持つ、マルコ・グラスティアが登壇し、もっとも弱い立場に置かれている子どもたちの教育を守るため、紛争下等の状況にあっても教育支援を継続する重要性を訴えました。

Panasonic × WVJ

ケニアでの「無電化地域ソリューションプロジェクト」が始まりました！

パナソニック株式会社（以下、パナソニック）が2018年の創業100周年を機に推進している「無電化地域ソリューションプロジェクト」。ワールド・ビジョン・ジャパンは、ケニアでの協働パートナーとして事業を実施しています。



寄贈式にてイルキマティ村の子どもたちとともにパナソニック、WVJ、来賓の皆さま



家の中での調理の様子

ケニアの無電化状況

ケニアでは近年電化が進んでいますが、人口の約 36%しか電気にアクセスできておらず、農村部では 12%にとどまります（2014年、世界銀行）。電力アクセスのない人々は、灯油や伝統的バイオマス燃料（薪、木炭など）を室内の明かりや調理に使用し、バイオマス燃料の不完全燃焼による空気汚染が引き起こす病気（肺疾患、脳卒中など）が問題となっています。エネルギー貧困は人々の生活や健康を圧迫し、社会の発展を阻害する要因ともなっています。

いよいよ本格稼働 寄贈式を開催しました

2019年1月29日、プロジェクト開始にともない、イルキマティ村で太陽光発電・蓄電システム商材の寄贈式を開催しました。式典には村の子どもたちや住民、学校関係者、パナソニック関係者のほか、ケニア政府、在ケニア日本国大使館、JICA ケニア事務所から多数の来賓が参加。会場となった小学校の教室に電気がついた瞬間、住民や子どもたちから歓声が沸きあがり、プロジェクトへの期待と熱気に包まれました。



小学校と診療所に太陽光発電・蓄電システム（右の黄色い建物）を設置（写真は小学校）



イルキマティ村の子どもたちが、マサイ族の伝統的なダンスや歌を披露



電力によりワクチン保管用冷蔵庫が使えるようになり、「いつでも子どもたちに予防接種ができるようになります」と嬉しそうに話す診療所スタッフ（右）

パナソニック ブランドコミュニケーション本部 CSR・社会文化部部長 福田里香様は、寄贈式で本プロジェクトへの期待を以下のように述べました。

「今回 WVJ 様との協働で、あかりや電気を活用して暮らしのアップデートにつながる取り組みを現地の皆さまと一緒にやって行かせていただけること、そして将来イルキマティ村の子どもたちがこの村、ケニア、そして世界を担っていく姿を思うと今から楽しみです」また、WVJ 事務局長の木内も、本プロジェクトへの意気込みを以下のように述べました。



太陽光発電・蓄電システムの除幕をするパナソニック 福田里香様（中央左）とWVJ事務局長 木内真理子（中央右）

「日本が世界に誇る技術を持ったパナソニック様と、互いの強みを活かして実施する本事業を通して、これまでワールド・ビジョンが展開してきた活動を基盤に、地域の課題解決と発展に貢献し、イルキマティ村の子どもたちが夢を追いかけられるよう、全力を尽くします」

ケニアでの「無電化地域ソリューションプロジェクト」は、2020年9月末までの2年間実施予定です。今後もプロジェクトの様子を発信していきます。ご期待ください！

企業・団体の皆さまは、WVJの重要なパートナーです。WVJは、SDGs達成に向けた社会課題解決のために多様なパートナーとの連携・協働を大切にしています。具体的な事例や実施については、お気軽にお問合せください。

ワールド・ビジョンだからできる支援

ワールド・ビジョンが本プロジェクトを実施するのは、チャイルド・スポンサーシップによる地域開発プログラムを実施中のイララマタク地域にあるイルキマティ村。住民の大半がマサイ族で、ほとんどの家庭が貧困ライン以下の生活を送っています。一部の公共施設をのぞき、住民の暮らす村には電気が通っていません。

本プロジェクトでは、パナソニックから太陽光発電・蓄電システム商材等を寄贈いただき、イルキマティ村の小学校、診療所、各家庭に設置・配布、それらを活用した収入創出活動、女性や子どもたちへの夜間識字教育などを実施することで、人々の生活改善・コミュニティの自立に貢献します。支援地域の人々との信頼関係を築き、長期支援を行っているWVだからこそできる支援です。





ミャンマーの支援と暮らし

ワールド・ビジョン・ジャパンがチャイルド・スポンサーシップを通じて支援を届けている 21 개국 46 の地域の中から、今回はミャンマーのタバウン地域開発プログラム（以下タバウン ADP）をご紹介します。チャイルド・スポンサーの「地球あちこち～ミャンマーを知る旅」（支援地訪問ツアー）が 2019 年 1 月 12 日（土）～ 17 日（木）に実施されました。14 名のチャイルド・スポンサーがタバウン ADP を訪問し、各村で歓迎を受け、チャイルドと対面しました。その報告をお届けします。



ミャンマー基本 DATA
正式名：ミャンマー連邦共和国
首都：ネーピードー
面積：68 万 km² (日本の約 1.8 倍)
人口：5,141 万人
宗教：仏教 (90%)、キリスト教、イスラム教
(出典：外務省)

やっと会えたね！チャイルドと感動の対面

ミャンマーでの支援地訪問ツアーは 2005 年以來だったため、「(ミャンマーツアーを) 心待ちにしていた」というチャイルド・スポンサーが多く参加されました。チャイルドたちの歓迎の踊りやスピーチの後、チャイルド・スポンサーが日本の手遊び「アルプス一万尺」を披露し、チャイルドと一緒に日本の遊びを楽しみました。



昔の成長報告を持参、「あなたの成長を日本から見守っていたよ」



チャイルドからの絵のプレゼントを喜ぶチャイルド・スポンサー



日本の手遊びをチャイルドと楽しむチャイルド・スポンサー



進級テストで到着が遅くなったチャイルドと。会えて本当によかった！

洪水に流されない柱

タバウン ADP の支援地域内には、多くの川が流れています。そのため、毎年雨期になると洪水が発生し、木や竹でできた家は流されることがあります。地域の人々の強い願いをうけ、チャイルド・スポンサーシップと皆さまからの特別なご寄付により、家の高床を支える柱のコンクリート化の支援を行っています。コンクリートの土台柱は支援で設置しますが、その上の家は、それぞれの住民が自分で資金を出して建てています。貯蓄グループに参加して、貯蓄できるようになったことで家を建て替えることができた住民もいます。頑丈な柱にすることで、水害の強い家で安心して暮らせます。「2020 年までに村の全世帯の高床の柱がコンクリート製になることを目指しています」と、住民の代表が語ってくれました。



4～5 人ずつ船に乗りました。行きは 1 時間半、帰りは 2 時間 (水位の変化でルートが変わったため) の船旅で、川とともにある暮らしを知りました



木製の柱の家 (左) とコンクリート製の柱の家 (右)。雨期には右側の家の床 (明るい緑色の部分) まで水がきます

栄養たっぷり、心づくしの「ごちそう」

タバウン ADP は米どころのため、稲作は行われていますが野菜を育てる習慣はなく、栄養バランスに偏りがありました。訪問した村では 2006 年から家庭菜園の支援が進められており、新鮮な野菜を食べられるようになったことで、子どもたちの栄養状態が改善しました。家庭で消費しきれない野菜は、売って現金収入を得ています。



地域の川でとれたえびや、養豚・養鶏で育てた豚・鶏、タバウン ADP が支援している家庭菜園で収穫された野菜を使った料理をごちそうしてくれました

訪問したチャイルド・スポンサーの方々の感想

チャイルドとはお互いすぐにわかった。手紙の交換をずっとしていたので、まったくの初対面という感じはなく、「やっと会えた」という嬉しさでいっぱいだった。

視察地ごとに熱烈的な歓迎を受けたが、これは現地の方々と WV の方々の信頼関係が良好で絆が強いからこそいただけたご縁だと思っている。



船に乗って訪問した村での歓迎。移動の疲れが吹き飛びました

ご存知ですか？「特別プロジェクト」



個人支援者（ご遺贈）による特別プロジェクトで建設された小学校校舎（ルワンダ）



企業による特別プロジェクトで飲料水給水システムが整備され、安全な水を飲めるようになった子どもたち（タイ）

学校校舎や診療所などの建設事業や、研修・啓発事業などの個別プロジェクトを「特別プロジェクト」として支援いただくものです。支援地域（国）や分野、予算などのご要望をうかがい、WVJの支援地域に住む子どもたちのニーズに即して、プロジェクトを形成、ご提案します。建設した施設への記念プレートの設置や、支援地域への視察もご相談が可能です。

支援者は企業、団体・グループ、個人など様々ですが、近年では遺贈・相続財産のご寄付による支援も増えています。また、パナソニックと協働で実施しているケニアでの「無電化地域ソリューションプロジェクト」（P.6-7）のように、企業とのパートナーシップのもと複数年にわたり実施する事例も。支援地域の人々との信頼関係を築き、長期支援を行っているワールド・ビジョンだからこそできる支援です。

具体的な事例や実施については、ホームページでご案内しています。ご相談・ご質問はお気軽にお問合せください。

ワールド・ビジョン 特別プロジェクト支援

遺贈、遺産や相続財産などのご寄付 「この子どもたちの笑顔以上に、素晴らしい景色はありません」

WVJでは、遺贈、遺産・相続財産からのご寄付をお受けしています。東京都在住の池上様は、ご自身の寄付とお義父様から引き継いだ相続財産により、お義父様が生前滞在されたスリランカで2校の幼稚園の修復・建設を支援。実際に幼稚園を訪問され、支援の成果を視察するとともに、子どもたちとの交流を深めました。「幼稚園の子どもたちや先生方、保護者、地域のお坊さんや行政の方々などが出席し、開園式が開かれました。子どもたちの様子や幼稚園の建物が少しでも見られたらいいな...と思っていたので、盛大な歓迎に驚きました。

訪問前は、もっと暗い雰囲気かなと思っていましたが、卑屈な様子は微塵もありませんでした。子どもたちもお母様方も、まっすぐ目を見て視線を合わせてくれて、素直にうれしい、ありがとう、と言ってください、感激しました。

子どもたちは、本当に可愛かったです。この子どもたちが、みんな元気に大人になって、幸せな人生を送ってほしい、と思いました。今までキレイな海や山、世界遺産を訪問しましたが、**この子どもたちの笑顔以上に素晴らしい景色はありません。**今までで一番ステキな旅行になりました」



池上様の支援により建設された幼稚園園舎



開園式に参加した池上様（3列目、中央）

☕ WVカフェに参加してみませんか？WVスタッフが、あなたの街を訪れます！

「チャイルド・スポンサー同士で話せるのが楽しい！」「紙面上の情報とは違って、現地に行った方の話は分かりやすく、”すっ”と入ってきました」と好評のイベント「ワールド・ビジョン・カフェ（WVカフェ）」を全国各地で開催しています（参加費無料）。支援地域の子どもの様子や活動状況を写真や動画を交えて報告します。参加者同士の交流の時間もあります。参加ご希望の方は、事前にホームページ、Eメール、お電話にてお申込みください（締め切りは開催日の3日前です）。



2019年2月WVカフェin沖縄の様子

- 神奈川** 日時：2019年6月15日（土）
14:00～16:30（13:30受付開始）
会場：横浜情報文化センター 7階 大会議室
神奈川県横浜市中区日本大通11番地
- 北海道** 日時：2019年6月29日（土）
14:00～16:30（13:30受付開始）
会場：かてる2・7 9階902会議室
北海道札幌市中央区北2条西7丁目 道民活動センタービル
- 大阪** 日時：2019年7月19日（金）
19:00～21:00（18:30受付開始）
会場：大阪市中央公会堂 地下1階 大会議室
大阪府大阪市北区中之島1-1-27



大募集！ チャイルドからの 手紙翻訳ボランティア

世界に1通だけの手紙を翻訳し、心と心をつなぐボランティアに参加してみませんか？現在、国内・海外在住の約170人が在宅翻訳ボランティアとして活躍中です。

募集要項

- 1 目安として英検2級以上の英語力があり、かつ手書き筆記体の文章を読める方
手紙英和訳のテストを受けていただきます（英語⇄日本語）
- 2 チャイルド・スポンサーの方
- 3 ご自宅で2週間に10～20通程度の手紙を和訳していただける方
- 4 国内ボランティア活動基本文書に同意いただける方
- 5 インターネットを通じて手紙データのやり取りが可能な方
- 6 Wordファイルで翻訳物の作成・提出が可能な方

応募方法

ボランティア登録用紙、翻訳テストなど必要書類を郵送します。資料をご請求ください。

TEL：03-5334-5351（平日9:30-17:00）

Eメール：dservice@worldvision.or.jp

ホームページ：お問い合わせ内容に「ニュースレターを見て在宅翻訳ボランティア資料希望」と入力ください。



サマースペシャル！ 駐在スタッフによる報告会

【第1弾】「シリア難民支援活動」報告会
日時：2019年6月28日（金）19:00～20:30
会場：WVJ事務所（東京都中野区）
駐在スタッフ：渡邊 裕子（ヨルダン）

【第2弾】「ネパール国極西部における学校・コミュニティ防災事業」報告会
日時：2019年7月11日（木）18:30～20:00
会場：WVJ事務所（東京都中野区）
駐在スタッフ：加藤 奈保美（ネパール）
※時間が若干変更になる場合がございます。予めご了承ください。

「未来ドラフト2019～わたしと難民がつながる アイデア・コンペティション～」決勝大会！

SKETCH THE FUTURE
未来ドラフト2019
わたしと難民がつながるアイデア・コンペティション
World Vision Take Back Future

若者のひらめきと優しさに溢れたプレゼンテーションを見に来ませんか？

日時：2019年6月16日（日）12:30～16:00

会場：東京ウィメンズプラザ（東京・表参道）

詳細、お申込みは右記で検索！

未来ドラフト2019

世界に思いをはせて Vol.5

事務局長 木内 真理子



賢そうなマサイのヤギと（連れて帰れないので丁寧に礼を言ってお返ししました）

みなさんには大切にしているものがありますか（高校生の息子は自転車だそうです）。大切にしている理由はなんのでしょうか。先日ケニアのマサイ族のコミュニティを訪れたとき、ヤギをいただきました。マサイの人にとって

ヤギなど家畜は大事な資産。だから朝起きて一番に、襲われた家畜はいないか数を数えるそうです。その大切なヤギを「日本のご支援者に感謝を表したくて・・・」と手渡してくれたマサイの女性。ぐっと来ました。